

Windows Server 2022 環境での導入時の注意

Windows Server 2022 (64bit 版 OS) の環境で 64bit 版の E-Post Mail Server (x64) シリーズ・E-Post SMTP Server (x64) シリーズ・E-Post BossCheck Server (x64)・E-Post Secure Handler (x64)を導入するときは、Administrator でのインストール時、サービス起動時の権限 (または利用制限) についての十分な確認が必要です。

Windows Server 2022 では、Administrator アカウントでインストール・動作しているときでも、User Account Control (UAC) が有効となっているときは、Administrator アカウントでもサービス登録や操作ができませんので、UAC を無効化してから、インストールや、プログラムの操作、サービスプログラムの起動を行う必要があります。

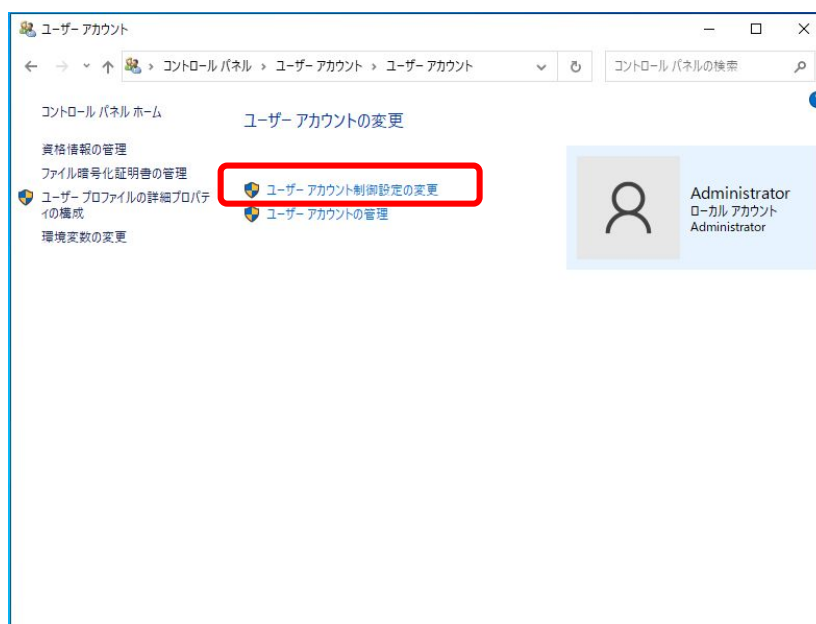
さらに最新版の 2022 では Windows Defender が邪魔をして不完全インストールを引き起こすことが新たにわかりました。リアルタイム保護の無効化かプログラムインストールフォルダを除外フォルダに指定する事前作業が必要になります。

また、Administrator ではない Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたり、プログラムの操作やサービスプログラムの起動を行うときは、常に「管理者として実行」を選択して実行する必要があります。

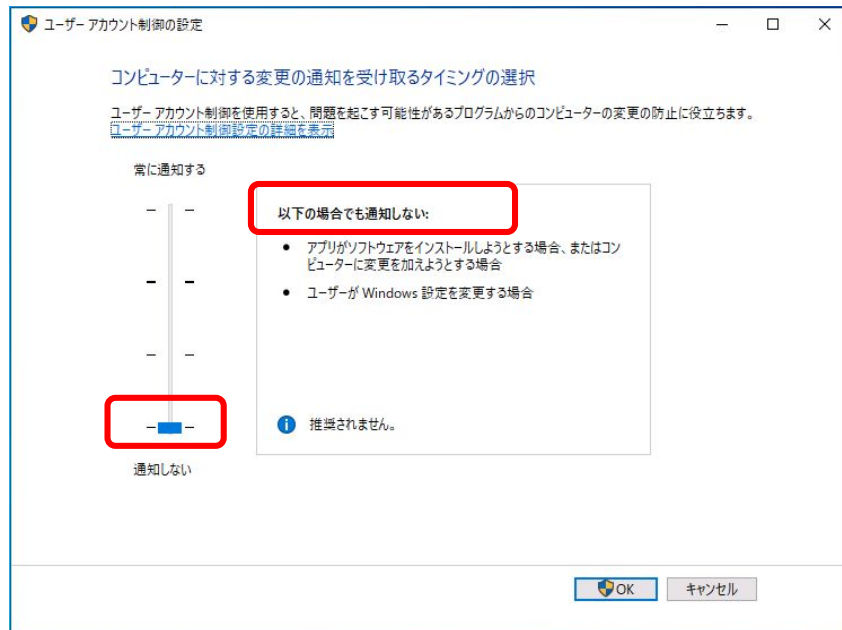
また、Windows ファイアウォールの設定で、E-Post Mail Server (x64) シリーズが使用するポートを設定することも忘れないようにしてください。

1. Windows Server 2022 環境に導入するための事前操作 [UAC の無効化]

(1) コントロールパネル → ユーザーアカウント → ユーザーアカウント → ユーザーアカウント制御設定の変更 を開きます。



(2) [ユーザーアカウント制御設定の変更] でいちばん下の「以下の場合でも通知しない」にスライダーを下げます。



(3) [OK] ボタンをクリックした後、ウィンドウを閉じ、再起動します。

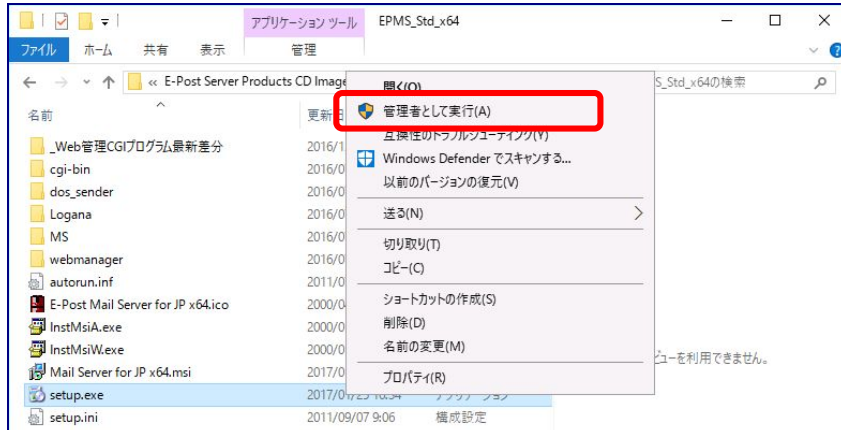
2. Windows Server 2022 環境に導入するための事前操作 [Windows Defender のリアルタイム保護無効化]

最新版 Windows Server 2022 へインストールする場合、追加で次のことを必ず行ってください。特に評価版 msi インストーラを使ってインストールするケースでは、これを守らないと不完全インストールになってしまうことがわかっています。製品 CD から setup.exe を実行してインストールする場合も、念のため下記の設定のいずれかを実行してください。

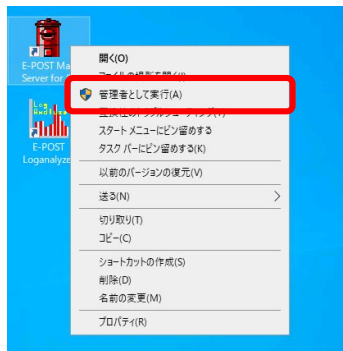
- (a). Windows Defender のリアルタイム保護を無効にする。
- (b). Windows Defender の除外フォルダとしてプログラムインストールフォルダの "C:¥Program files¥" 以下を指定する。

3. Administrator 権限の別名アカウントでインストール・実行するとき

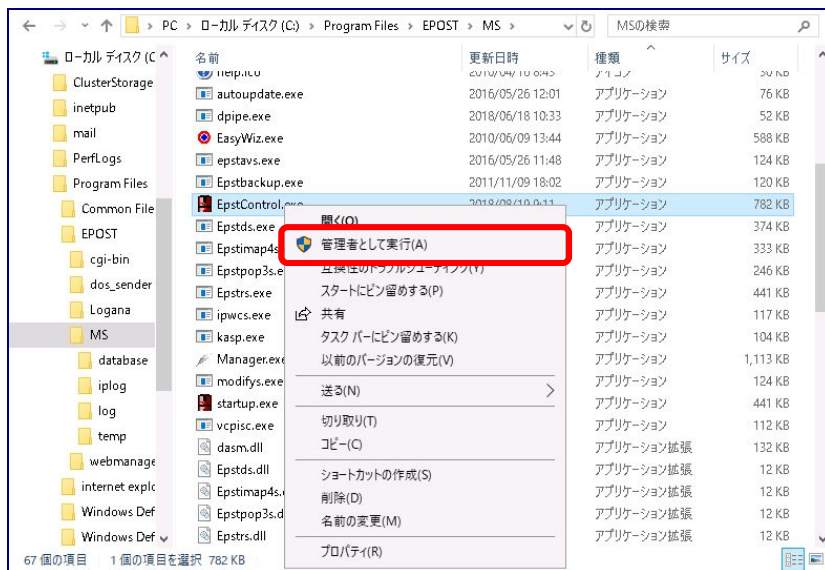
(a). Administrator 権限の別名アカウントでインストールする際、setup.exe を実行するときに右クリックメニューから、「管理者として実行」を選択して実行します。msi インストーラでは右クリックメニューには「管理者として実行」が表示されず選択できませんので、別名アカウントではインストールせず、ビルトインの Administrator でインストールすることをお勧めします。



(b). Administrator 権限の別名アカウントでインストールしたときは、Mail Control を開く際、Mail Server アイコンをダブルクリックして実行せず、右クリックメニューから「管理者として実行」を選択します。



(c). Administrator でインストールし、Administrator 権限の別名アカウントで登録・運用するときに、スタートメニューやデスクトップ上のアイコンが登録されないときには、プログラムインストールフォルダ内の"EpstControl.exe"を選択、右クリックメニューから「管理者として実行」を選択します。

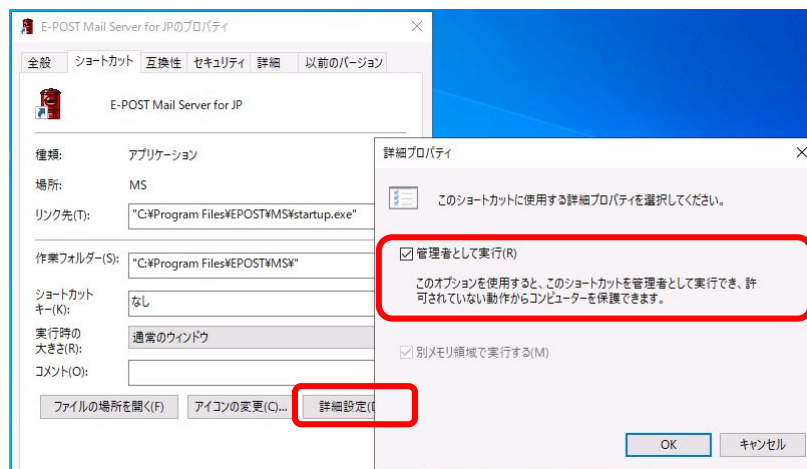


既定のプログラムインストールフォルダは次の通り。

- ・ 64bit 版 E-Post (x64) シリーズを 64bitOS に… ”C:\Program Files\EPOST\MSEX”

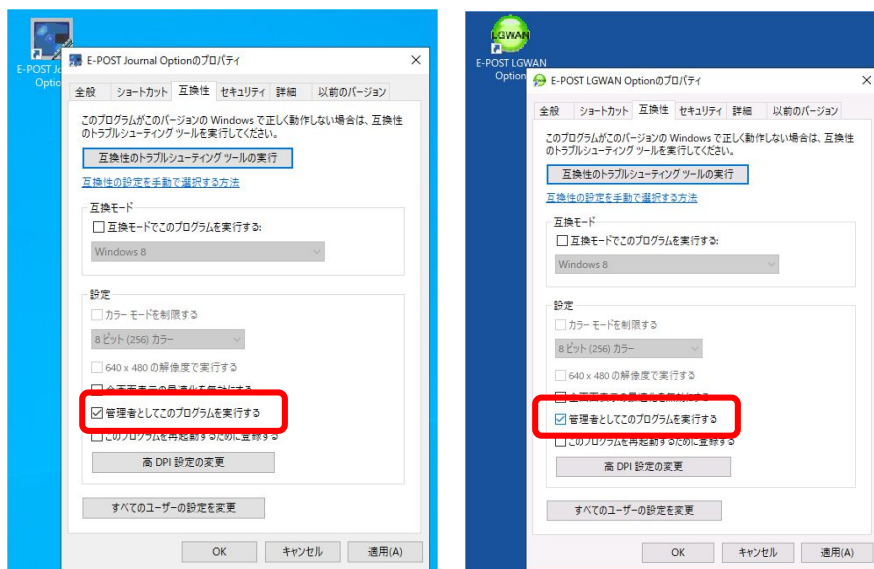
(d). 前述の(b)について、ショートカットアイコンのプロパティを常に「管理者として実行」する指定としておくには、次の操作を行います。

「E-Post Mail Server」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択。表示されるダイアログボックスの「ショートカット」タブを選択し、「詳細設定」ボタンをクリック。「詳細プロパティ」ダイアログボックスの「管理者として実行」チェックボックスをオンにし、「OK」ボタンをクリック。プロパティのダイアログボックスも「OK」ボタンクリックで閉じる。



(e). 今後、「サポート 2」から無償で入手可能な E-Post Journal Option や、有償の E-Post LGWN Option、同じく有償の E-Post BossCheck Optionなどを追加でインストールされた場合、デスクトップに生成されるショートカットアイコンについて、互換性の問題からセキュリティが下げられてしまい、そのままでは完全な動作ができなくなっています。

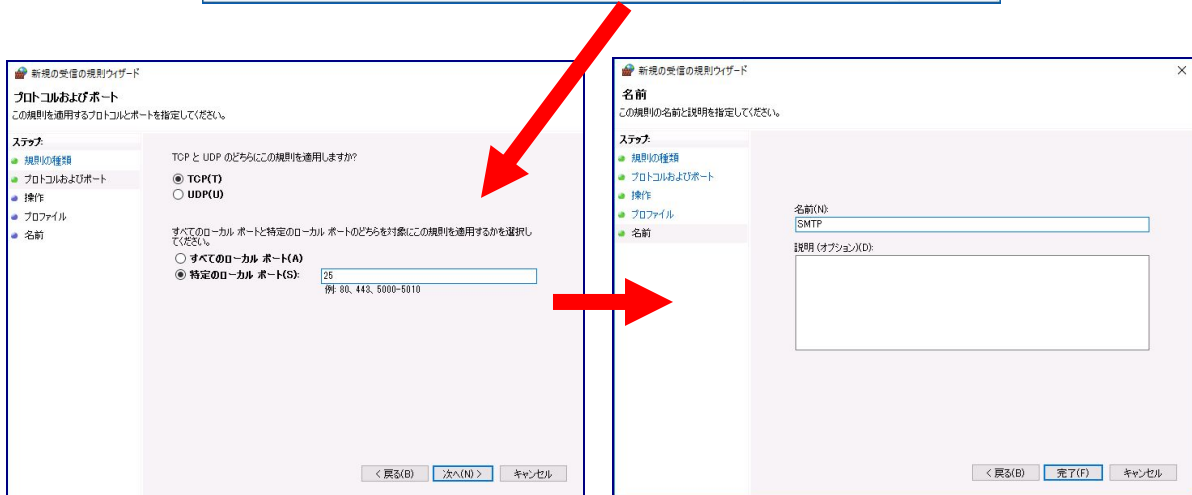
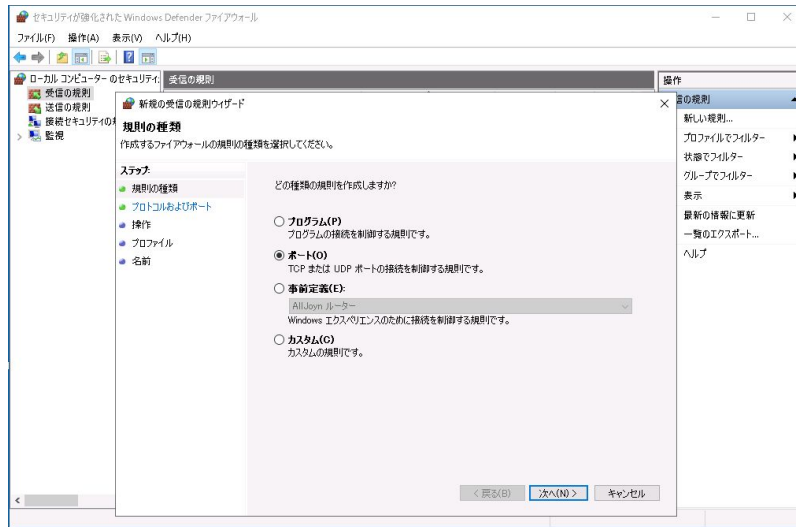
その場合、前記とほぼ同じくショートカットの右クリックメニューから「プロパティ」を開き、今度は「互換性」タブを選択し、「管理者としてこのプログラムを実行する」チェックボックスをオンに設定するようにしてください。



4. セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定

セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定でポートの使用許可を設定します。Administrator アカウントでログインし、セキュリティが強化された Windows ファイアウォールの設定を開きます。

[操作] - [新しい規則] を選択し、必要に応じて、SMTP (ポート番号 : 25) ・ Submission (同 : 587) ・ POP3 (同 : 110) ・ IMAP4 (同 : 143) 各プロトコルが利用するローカルポートのポート番号について、受信・送信ともに通信許可をそれぞれ追加します。



ポート番号 (プロトコル一般名称)

- 25 (SMTP)
- 587 (Submission)
- 110 (POP3)
- 143 (IMAP4)
- 465 (SMTP over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ
- 995 (POP3 over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ
- 993 (IMAP4 over SSL/TLS) ※SSL/TLS 使用時のみ

さらに念のため、次のサービスプログラムおよび管理ツール類にも、通信許可を与えてください。

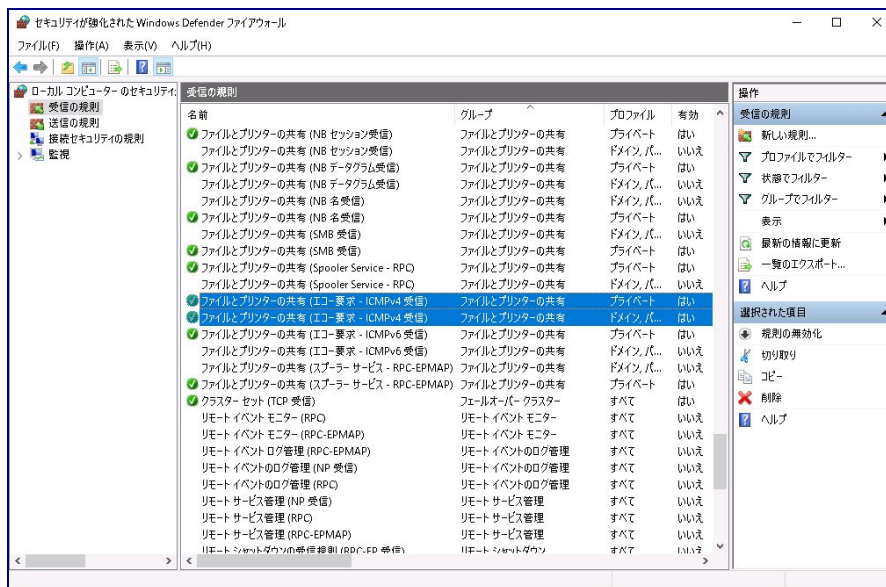
Epstrs.exe	(SMTP 受信サービスプログラム)	
Epstds.exe	(SMTP 配送サービスプログラム)	
Epstpop3s.exe	(POP3 サービスプログラム)	※SMTP Server には非搭載
Epstimap4.exe	(IMAP4 サービスプログラム)	※SMTP Server には非搭載
modifys.exe	(ウイルスパターン更新サービスプログラム)	※Enterprise II 版のみ
ipwcs.exe	(IP 監視サービスプログラム)	※E-Post クラスタ構成時のみ
EpstControl.exe	(管理ツール : E-Post Mail Control)	
Manager.exe	(管理ツール : E-Post Account Manager)	
loganalyzer.exe	(付属ツール : E-Post LogAnalyzer)	

5. セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールの設定 (E-Post クラスタ構成時)

また、セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォールでは、ICMP プロトコルが無効にされており、ping に応答しない設定になっています。E-Post クラスタ構成時には、付属の IPWacher (IP 監視サービスプログラム) を機能させるために、「ファイルとプリンターの共有 (エコー要求-ICMPv4 受信)」および「仮想マシンの監視 (エコー要求-ICMPv4 受信)」を有効に設定する必要があります。

ちなみに、シングル構成の場合は、付属の IPWacher を使いませんので、特に関係ありません。

「ICMPv6 受信」については、IPWacher は IPv4 のみの対応で IPv6 に非対応ですので、特に変更する必要はありません。



5. 必要に応じて機能や役割の追加

デフォルトで組み込まれない機能や役割を利用する場合、必要に応じて機能や役割の追加が必要です。

(1) 機能の追加 telnet クライアント

… サーバ自身で telnet コマンドを使ってメールサーバへ接続確認作業するために必要

(2) 役割サービスの追加 Web サーバ (IIS)

… Web 管理 CGI プログラムを導入する場合は必要

6. Windows Defender ウイルス対策のリアルタイムスキャン除外設定

サードパーティ製アンチウイルスソフトのリアルタイムスキャン除外設定が必須のように、Windows Server インストール時に標準で備わっている Windows Defender ウイルス対策についても、同じことが言えます。「除外」・「除外の追加」で以下の設定を行ってください。

〔E-Post Mail Server／SMTP Server 全シリーズ共通〕

- ・メール作業フォルダ（既定値） "C:¥mail"
- ・メールボックスフォルダ（既定値） "C:¥mail¥inbox¥%USERNAME%"

〔E-Post 方式クラスタ構成時は次を追加〕

- ・[プログラムインストールフォルダ]¥temp "C:¥Program Files¥EPOST¥MS¥temp"

〔Enterprise II (x64) シリーズの場合は次を追加〕

- ・一時展開する作業フォルダ（既定値） "%ALLUSERSPROFILE%¥wct¥" ※1
- ・パターンファイル保管フォルダ（既定値） "C:¥Program Files¥EPOST¥MS¥database"
- ・パターン更新ログフォルダ（既定値） "C:¥Program Files¥EPOST¥MS¥log"

※1) OS 環境によって変わりますが大多数は"C:¥ProgramData¥wct¥"となります。

株式会社イー・ポスト